ひと 2022

赤平のいたがき社長に創業者一族以外から就任

山本（やまもと）　真史（まさふみ）さん

10月に創業40周年を迎えた赤平市の革かばん製造販売業「いたがき」。板垣江美社長が代表権のある会長に就き、創業者一族以外から初めて社長に就任した。同社の人材育成アドバイザーを10年務めてきた実績を評価されての抜てき。代表権はないが、「50年、100年と会社が存続できるように会長と二人三脚で頑張っていきたい」と話す。

小樽市出身。小樽商科大卒業後、みずほ銀行に入行、中小企業融資担当として東京などで勤務した。その後、総合人材会社のキャリアバンク（札幌）に入社。並行して同大ビジネススクールに通い、経営学修士（MBA）を取得した。キャリアバンクでは道の委託で若者の就職を支援するジョブカフェ北海道のセンター長などを務めた後、2015年に民間のシンクタンクに転職。17年からは同大学術研究員として産学官連携の調査や研究を行った。

いたがきとの出合いは10年ごろ、社員研修の講師を務めたことがきっかけ。以来、中堅以上の社員にマネジメントについて教えてきた。20年、社外監査役になり、22年4月に入社、5月から常務を務めた。

タンニンなめしの革を使った堅牢（けんろう）な作りが特徴のかばん。品質維持のためには技術継承と人材育成が命綱だ。一人前の職人になるには10年かかる。地道な努力が必要なため、入社後短期間でやめる若者も後を絶たない。昔は見て覚える世界だったが、「今の時代は、技術のマニュアル化や社員へのきめ細かいケアなどが必要。働き続けられる環境をつくるのが私の役目」と語る。43歳。（宍戸透）

©北海道新聞社